

令和6年度第5回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録

日 時 令和6年11月27日（水）10時58分～12時5分
場 所 浜松キャンパス S-Port 3階大会議室
出席者 赤塚、大須賀、栗村(Web参加)、鈴木、野田、増井、三輪の各委員
日詰、塩尻、川田、森田、大場、川村、佐藤、鎌塚、本橋の各委員
欠席者 岩崎、大石、加藤の各委員
陪席者 青木、高倉、二又、近藤の各副学長、飯田、河島の各監事

I 前回議事録の承認

令和6年度第4回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 静岡大学の将来構想について

議長から、静岡大学の将来構想について、資料1により、説明があった。

（委員から出された主な意見等）

三輪委員：高校の教員も、今の静岡大学を冷ややかな目で見ている。共通テストが近づいているが、今の報道の状況では進学を勧められないという話も出ている。

議長：大変危惧しているところであるので、何らかの手段を講じて、高校長会の皆様へも事情を説明する機会を設けたいと思っている。

川田委員：静大は色々なところで批判されているので、今後丁寧に進めていかないといけないと思っている。

議長：ご指摘のとおりである。色々なステークホルダーの方々がおられるので、一つ一つ丁寧に対応したい。

野田委員：一般の皆さんは経緯や現状を知らないもので、多分に誤解や先入観でSNS等にコメントをされている。今回の学長の方針は「国際水準の大学にする」という非常に強いメッセージであるので、繰り返しメッセージを発信し続けるしかないのではないか。ステークホルダーの方にも味方になっていただけるように対応いただきたい。

議長：SNSも注視していかないといけないと思っている。このようなデジタル社会において、どのようなメッセージを発することができるか、そのあたりも踏まえて対応していきたい。

鈴木委員：まずはここに記載があることを大学が一体となって動かすことで、次に進めると思う。マスメディアに翻弄されることなく、大学としての方向性を決め、その中の一つに他大学の連携が入ってくる、という考え方で正しいと思う。

ここから先、メディアやステークホルダーを含め、プラス面の情報で静大を見ていただく、というのがベストだと思う。皆さんにお願いしたいのは、理事を含めた全職員が同じ方向に向かって一体化して取り組むことである。一つの方向に皆が協力していることが対外的に見えれば、大学のイメージが相

当変わらと思う。

議長：学長選考・監察会議の大石議長より、一体的な大学運営に努めるように強く言われている。次の任期の4年間で、一体的な運営を心掛けた上で、新しい静岡大学を作っていくという思いで、大学を一層活性化できればと思っている。

2 国立大学法人静岡大学教職員給与規程等の改正について

佐藤委員から、国立大学法人静岡大学教職員給与規程等の改正について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

Ⅲ 報告事項

1 学長候補者の決定について

栗村委員から、学長候補者の決定について、資料3により報告があった。

(委員から出された主な意見等)

川田委員：学長選考後、現実問題として難しい問題が起こっていると認識している。浜松医科大学、静岡市、浜松市、静岡県からも様々なコメントが出されているが、それについて学長・選考監察会議はどのように考えているか。

栗村委員：質問については学長選考・監察会議そのもののミッションとは少し異なるので個人の意見となるが、現在静岡大学が置かれている状況は、決して楽観的なものではないと認識している。その中で日詰学長候補者には、今後静岡大学をよりよい方向に導いていくことを期待して選考した。

2 令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に係る申請について

川田委員から、令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に係る申請について、資料4により報告があった。

(委員から出された主な意見等)

野田委員：全体の予算規模はどのぐらいになるか。仮に採択されなかった場合でも、自力で進めるのか。

川田委員：予算規模としては、一大学5年間で55億程度となる。採択されなかった場合は、規模は縮小せざるを得ないが、カーボンリサイクルの研究については福原先生の研究を中心に世界トップレベルであり、企業からも共同研究の引き合いが非常に出てきているところである。できる範囲の中で進めていく形としたい。

野田委員：静岡大学が独自でサステナブルな大学運営をしていくためにも事業化していくべきだと思うので、ぜひ進めていただきたい。連携申請については、採択された場合は予算が静岡大学へも振り分けられるのか。

川田委員：どちらも予算は申請している。研究にそのまま利用するものではなく、設備整備やURAの雇用など、全体として研究力をどう上げていくかが問われているので、そのような形での申請となっている。

鈴木委員：本件について、産業界の支持はどうなっているか。

川田理事：静岡大学が申請しているものについては、静岡市・浜松市・静岡県

と交渉し、汚泥施設やごみ焼却場等にデモ機を作っておかせてほしいという話は了承を得ている。それを他の地域に展開していく。電力会社等の企業も興味を持っているので、共同研究を進めている。

鈴木委員：カーボンニュートラルは大きな市場につながるので、ぜひ成功させていただきたい。企業を取り込んで、静岡大学のイメージアップにつなげていただきたい。

川田理事：福原先生の研究を、ぜひ次の静岡大学の研究の中心となるようにしたい。

IV その他

1 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料として紹介があった。

以上